ENVIRONMENTAL REPORT

２０１１年度
MOST EFFECTIVE RECOVERY of the year　受賞
ＢＣＩより
【事業継続ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの普及啓発を進めている国際的な非営利団体】

BCPに沿って行動したことにより震災からの早期復旧が認められ世界で最優秀賞受賞

株式会社オイルプラントナトリ

環境報告書2012

CONTENTS

目次・・・・・・・・・・・・・・1

ご挨拶・会社目標・・・・・・・2

会社概要・・・・・・・・・・3～4

環境方針・経営理念・・・・・・5

環境管理組織体制・・・・・・・6

環境保全活動・・・・・・7～10

教育・訓練・・・・・・・・・・11

東日本大震災から復旧・12～15

地域社会との関わり・・・・・16

コンプライアンス ～安心安全・・・17

表彰・・・・・・・・・・・・・18

環境報告書について

本報告書は、株式会社オイルプラントナトリの２０１１年度の
環境保全への取り組みと実績を報告するものです。

ご　挨　拶

代表取締役社長
武田　洋一

弊社は、2011年3月11日の東日本大震災で津波による壊滅的な被害を受けましたがBCP（事業継続計画）に基づき、まず被害状況を即座に把握し、災害本部を立ち上げBCPを発動させた事により、1週間で事業を再開させる事が出来ました。

また、我が社のスローガンである“次流嗅技”（次の流れを嗅ぎ取る技を磨く事）によって、同業他社も同じように被害を受けている事から、協力体制を迅速に築きお客様にご迷惑をおかけしない様に行動できた事が信頼に繋がったと思っております。

その取り組みに対し、世界最大の非営利組織団体BCI（Business Continuity Institute）から最優秀賞を受賞しました。

今回の教訓として、同業者同士の協力体制が実に大事な事であると痛感し、東北だけではなく関東方面の同業者とも協力体制を締結できるようにし、安全・安心を提案出来る企業として活動してまいります。

これからも、私たちオイルプラントナトリは「環境保全と省エネルギー」をコンセプトに木くずや廃油を燃料にした、創業時の理念のもと、自然環境との共生、そして クリーンな社会環境・人にやさしい環境等、グローバルな視点に立った姿勢で事業に取り組んでまいります。

今後共より一層の御指導と御鞭撻の程を切に御願い申し上げます。

平成２３年度 会社目標

スローガン　次流嗅技（じりゅうきゅうぎ）

＊＊＊＊＊＊ キーワード ＊＊＊＊＊＊

【逆境・苦境を味方に成長】

ひとり一人の強みを発揮し復興ビジョンをクリアして

1. 逃げない

「自己（おのれ）を敬え」

ピンチはチャンスと捉え、己の壁を乗り越えよ

2. ごまかさない

「他人（ひと）を敬え」

結果は数字として現れる、真摯に業務に取り組め

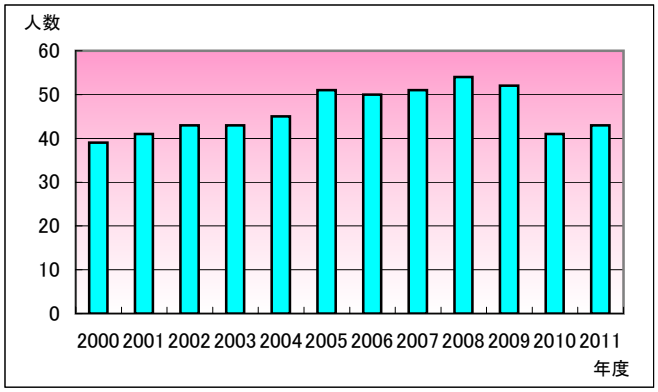
3. 嘘をつかない

「仕事（こと）を敬え」

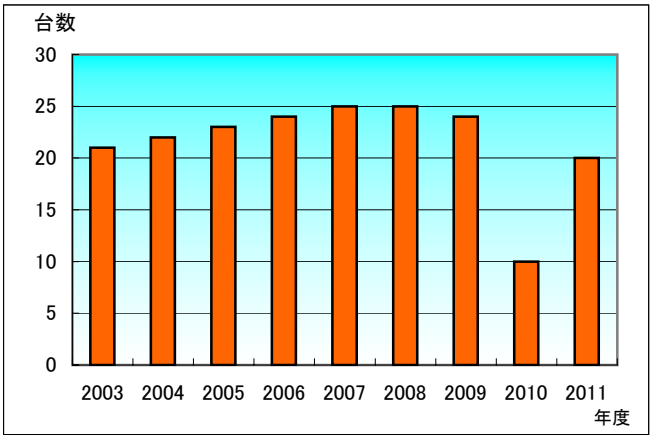
誠実な行動は、より良いコミュニケーションの潤滑油である

会 社 概 要

- 社　　名　株式会社オイルプラントナトリ
- 創　　業　昭和32年3月
- 本　　社　宮城県名取市増田三丁目4番3号
- 事 務 所　宮城県名取市下増田字広浦52番3号
  ☎ 022-382-2713　　🖷022-384-0946
  e-mail　opn-amenity@msf.biglobe.ne.jp
  http://www.opnatori.co.jp/
- 第１工場　宮城県名取市下増田字広浦35番48号
- 第２工場　宮城県名取市下増田字広浦52番3号
- 法人設立　昭和63年4月
- 資 本 金　3，000万円
- 役職員数　47名（平成24年9月1日現在）
- 人員の推移



- 収集運搬車輌推移



- 敷地

第1工場　6230.71m²　　第2工場　7127.41m²

- 産業廃棄物処分業許可

産業廃棄物処分業	宮城県
特別管理産業廃棄物処分業	宮城県

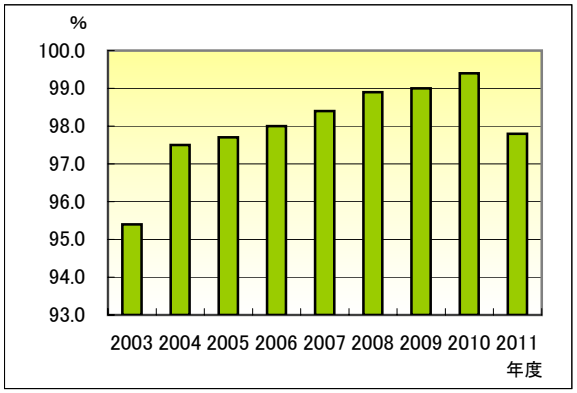
- 産業廃棄物収集運搬業・許可（県・政令市）

- 石油製品販売業者

通商産業省第2-4-0-2740号

- 販売品
  - バイオECO燃料（BDF）
  - 再生Ｂ重油
  - 鉱物系補助燃料
  - 塩素含鉱物系補助燃料
  - 溶剤系補助燃料
  - 塩素含溶剤系補助燃料
  - 剥離剤

- 受注産業廃棄物のリサイクル率推移



〔主要設備および処理能力〕

❒ 運搬車輌

（平成24年4月1日現在）

12kℓタンクローリー	3台
10kℓタンクローリー	2台
4kℓタンクローリー	4台
12tウィングパワーゲート付車	1台
8tウィング移動中間処理車	1台
6tウィングパワーゲート付車	1台
5tクレーンパワーゲート付車	1台
3tウィングパワーゲート付車	1台
3tパワーゲート付車	2台
2tパワーゲート付車	1台
3tローリー燃料配達車	1台
ライトバン	2台
2tダンパー車（構内車両）	1台
合計	21台

12tﾀﾝｸﾛｰﾘｰ

4tﾀﾝｸﾛｰﾘｰ

3tウィング

12tｳｨﾝｸﾞ

移動中間処理車

5tｸﾚｰﾝ車

❒ 中間処理施設

・油水分離処理施設

廃オイル⇒再生重油
30m^3／日（10時間稼動）

・1号機破砕処理施設

廃プラ⇒4.6t／日（8時間稼動）
木くず⇒19.6t／日（8時間稼動）

・2号機破砕処理施設

廃プラ⇒固形燃料
11.4t／日（8時間稼動）

・中和処理施設

中和撹拌タンク

廃酸・廃アルカリ⇒加工用水
43m^3／日（10時間稼動）

・混合処理施設

廃溶剤⇒代替エネルギー
水溶性廃液⇒加工用水
136m^3／日（10時間稼動）

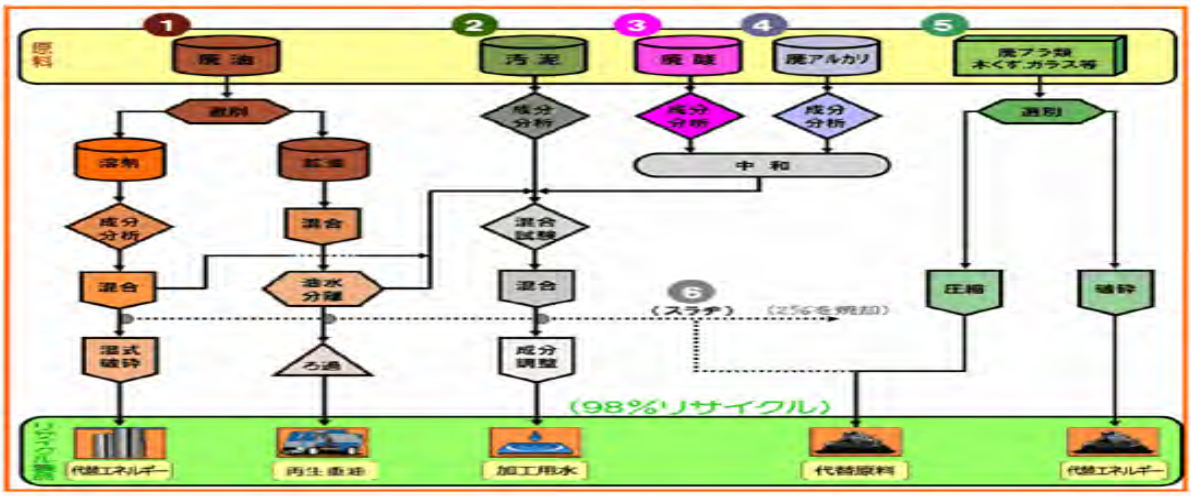
・廃食油の燃料化施設

てんぷら油⇒BDF
15m^3／日（10時間稼動）

・廃棄物分析室

蛍光X線分析装置

❒ 処理工程図



環境保全活動に関する方針

環境方針

株式会社オイルプラントナトリは廃棄物の有効利用、及び再資源化を通じて
生活環境の継続的な向上に全社員参加で貢献します。

1. 委託された廃棄物は、安全且つ適正な収集運搬と処分を行うと共に、有効利用、再資源化技術の向上に取り組み、環境保全、省エネルギー、省資源に努めます。
2. 作業工程での環境への配慮に努め、汚染の予防及び環境マネジメントシステムの継続的な改善をします。
3. 環境に関する法律、規制、条例及びその他要求事項を遵守します。
4. 環境目的、目標を定め、実施状況を確認し、定期的に見直しを図ります。

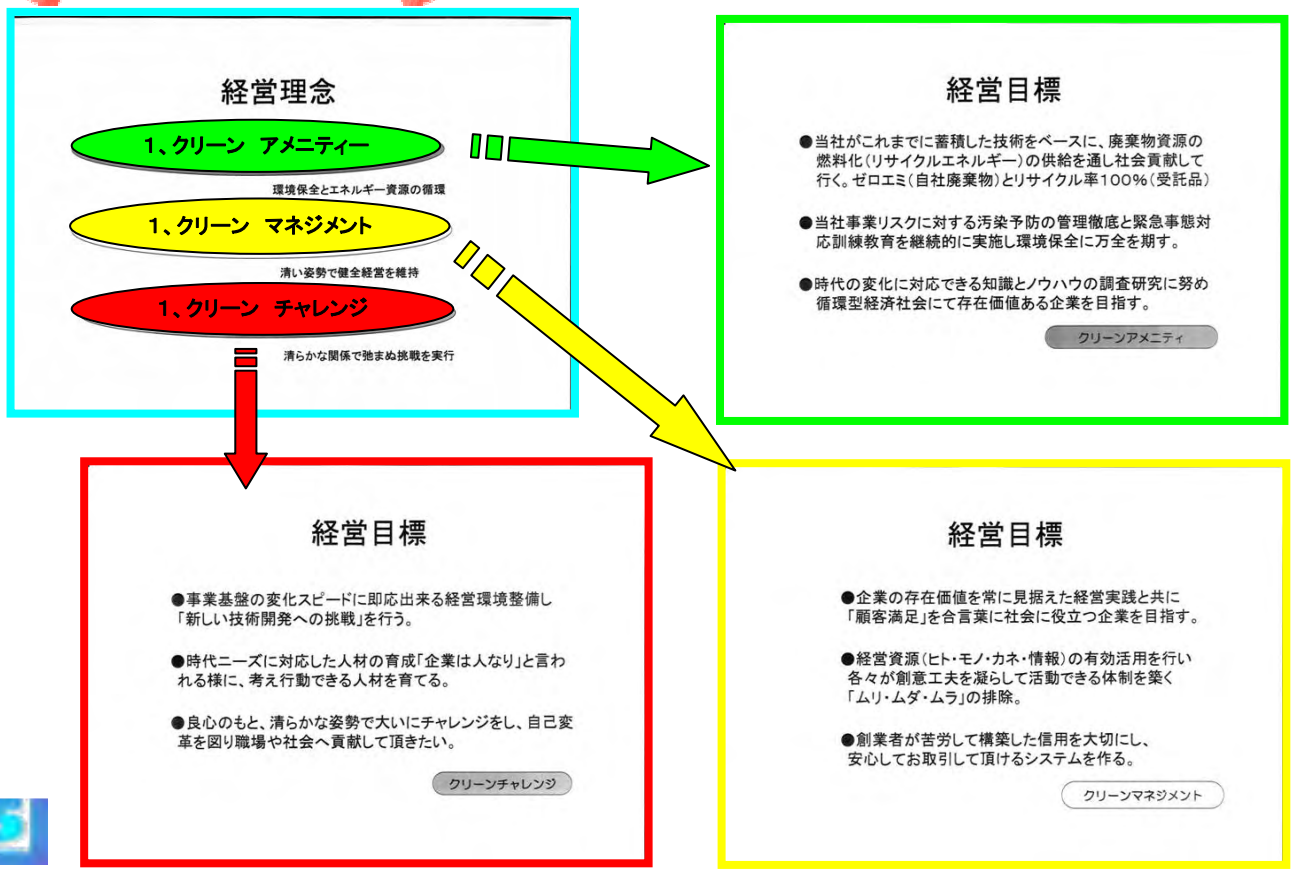
『≪もったいない≫をモットーに重点テーマを次に定めます』

- ◎ バイオＥＣＯ燃料（廃食用油の燃料化）による大気汚染物質の低減に寄与
- ◎ 施設・設備・作業環境の点検及び管理の徹底
- ◎ ＭＳＤＳや物性表の入手を徹底し廃棄物の安全性の確認により適正処理
- ◎ 収集運搬における車輌及び容器の点検及び管理の徹底
- ◎ 事業活動におけるエネルギー消費とCO_2発生の削減
- ◎ 廃棄物の燃料化、原料化、資源化のリサイクルの推進

5. この環境方針を継続的に実行するため、文書化し全従業員に周知します。
6. この環境方針は、積極的に社外に公開します。

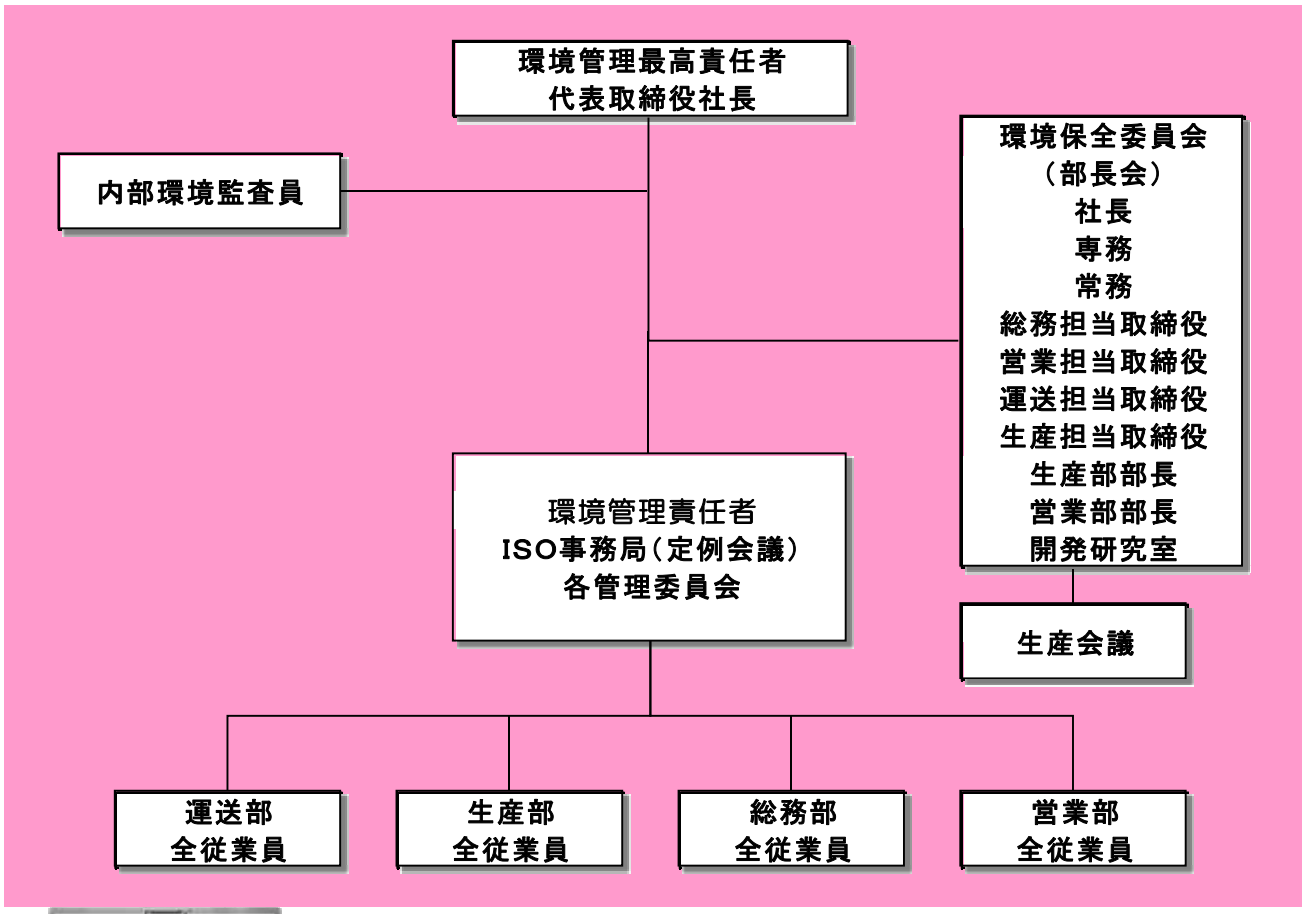
2011年7月20日
株式会社　オイルプラントナトリ
代表取締役社長　武田　洋一

経営理念

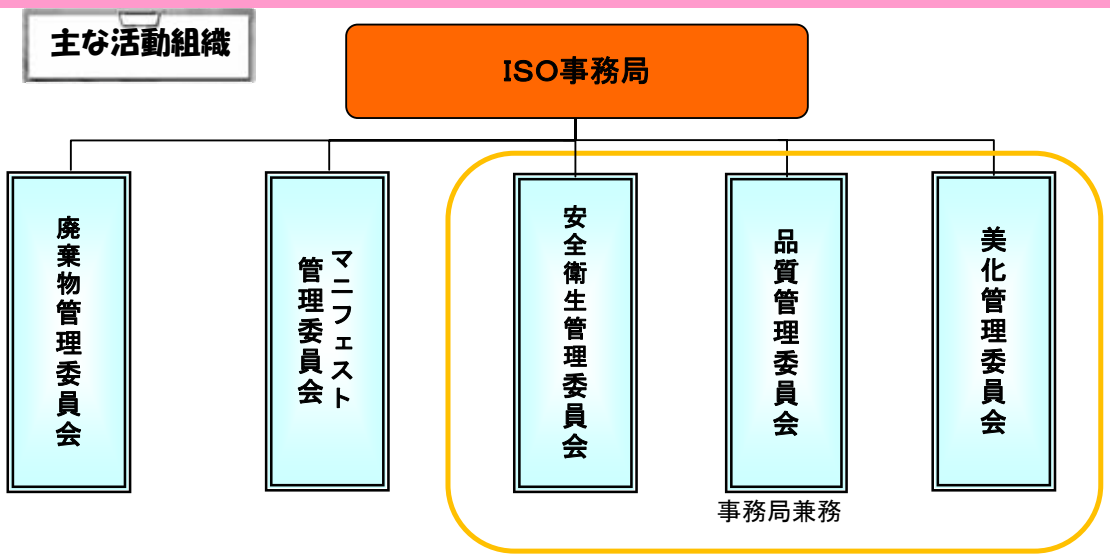


環境管理組織体制

当社の環境保全活動は、下図のような体制で運営されています。
メンバーが全員役員で構成される≪環境保全委員会≫を設置し、経営と現場の両方の視点から迅速な対応を実現しております。
また、事業活動全体の環境負荷を把握し、効率的な環境活動を行うため、ISO事務局会議や生産会議（各部間の連携を目的とする）および内部環境監査員、各管理委員会の協力の上で、定期的なチェック体制は欠かす事の出来ない重要な活動です。



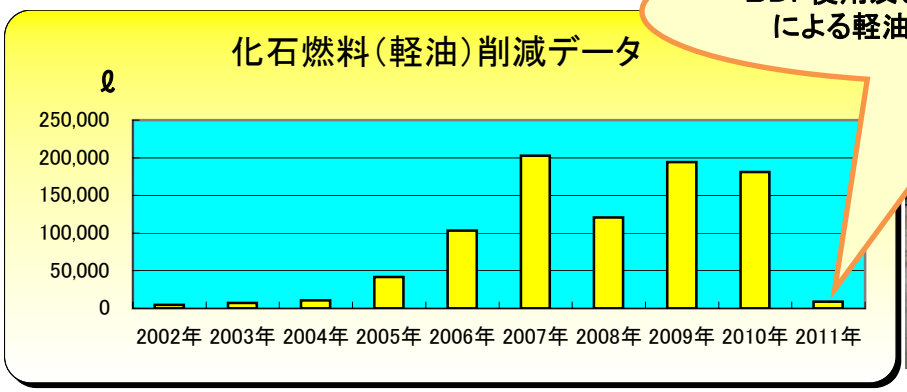
主な活動組織



環境保全活動

軽油使用量の削減

《エネルギー使用量の削減》

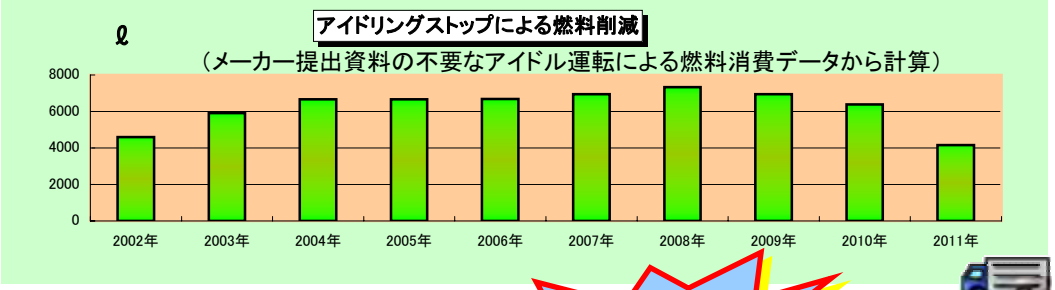


BDF使用及びｱｲﾄﾞﾘﾝｸﾞｽﾄｯﾌﾟ活動
による軽油削減は僅か8,971ℓ

2011年度は、津波により車両が流出した事とBDF製造施設が大きな被害を受けた事から、BDF施設の復旧を目標にしてまいりました。お陰様で完全に施設は復旧し、BDFの品質も全項目分析を行い災害前の品質を確認した事から弊社車両で使用始め、お客様にもBDFを販売開始致しました。

《アイドリングストップの推進》

休憩時間や作業時にアイドリングストップを行い燃料削減活動を推進しています。



BDF100%で快走

国内初！

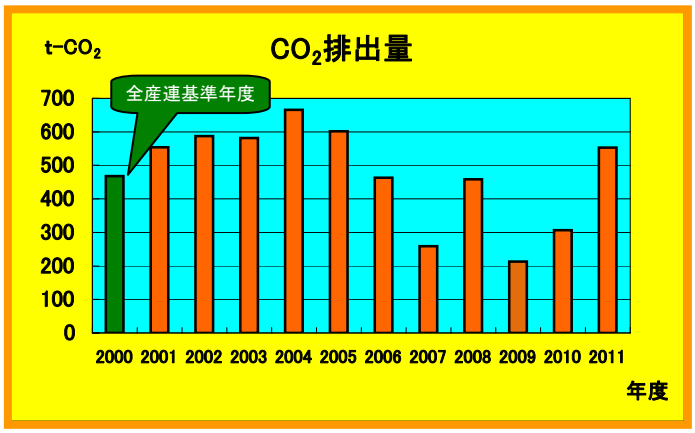
新長期排出ガス規制車の実績

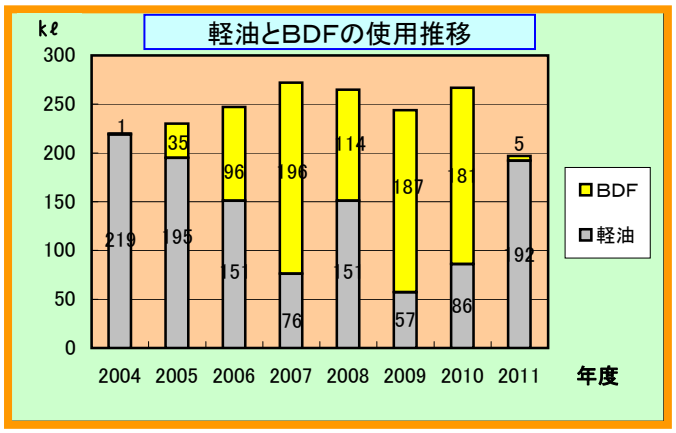
①2008年8月2日（土）テスト走行距離41.7km！　約1時間の走行テスト合格
②2008年9月には1ヶ月間の走行テスト合格
③2009年1月から2011年3月末までの実績　**【部品交換なし　NOトラブル！】**
　走行距離 188,855km　BDF使用量 68,934ﾘｯﾄﾙ
④震災で中断後　2012年6月より再使用中

新長期排出ガス規制車両

ＣＯ₂の排出削減

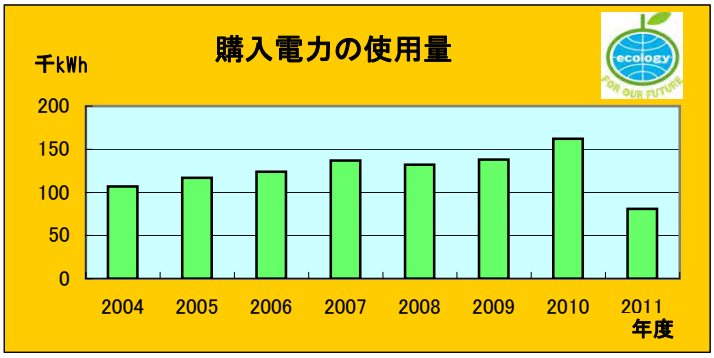
弊社でCO_2排出量が一番多いのは、収集運搬車の燃料（軽油）である事から、カーボンニュートラルのバイオディーゼル燃料を使用する事とアイドリングストップにより、CO_2削減活動等を行っています。





2011年度は、大津波によりBDF製造施設が甚大な被害を受け、車両にBDFを使用出来なかった為に軽油使用量が増え、大幅にCO_2排出量が増加してしまいました。

電力の使用量



震災の影響により、第一工場・第二工場とも電気が使えず、発電機を使用した為に化石燃料使用が増加しました。
第一工場は7月より、第二工場は10月より、電気使用となった為に、購入電力の減少となりましたが2011年度は参考値と致します。

ＣＯ₂削減意識向上

運送部では、作業中や休憩時のアイドリングストップ時間を、運転手各々が運搬終了後にパソコン入力しています。

毎週水曜日は17時退社目標

電気使用量の削減およびCO_2削減。且つ社内業務の見直しによる効率化を図るため10年間継続活動しています。

清　掃　活　動・・・（美化管理委員会）

平成22年度も工場周辺のごみ拾いを、4回実施しました。（8年継続）
また、場内の花いっぱい活動や美化パトロールも行うなど、活発に活動していましたが、震災後は充電期間中となっています。

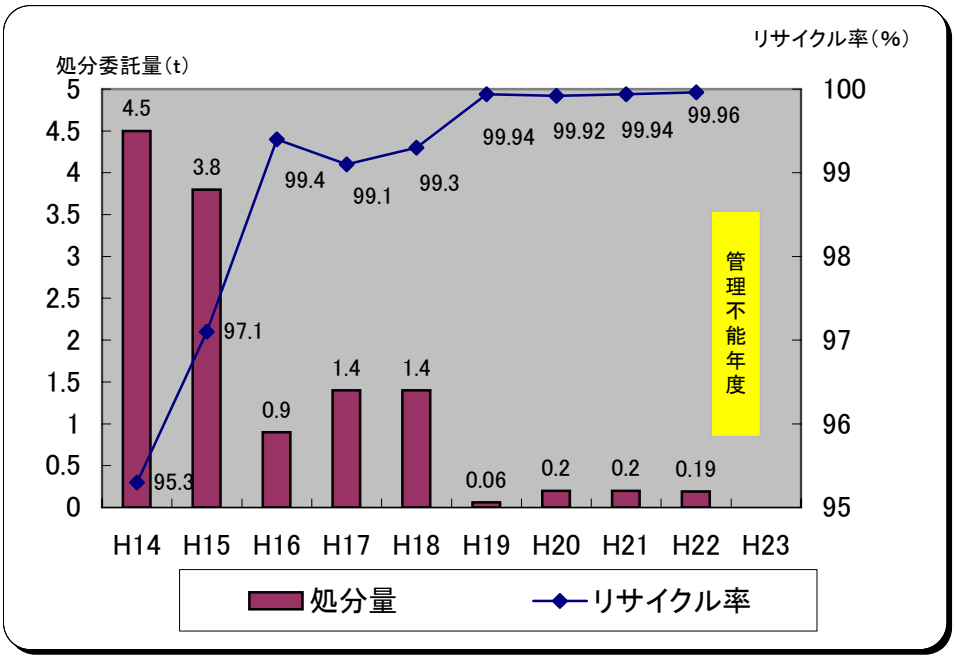
工場周辺の清掃活動

閖上海岸の清掃活動に参加

花壇の枠に化粧を施した。（福祉施設とのコラボレーション）

事業系一般廃棄物ゼロエミッションへの活動

弊社では、2004年度にゼロエミッションを達成し、更に炭化処理機をフルに稼動させながら、炭化物の品質を向上させて花壇や野菜の土壌改良剤として使用。
平成22年度のリサイクル率は99.96%でしたが、23年度は災害により管理不能となった為に準備期間とし、
24年4月より改めて再開しております。



資格取得者

24年9月1日現在

◎	産業廃棄物中間処理施設技術管理士	2名	◎	安全運転管理者	2名
◎	収集運搬業の許可申請に関する講習	2名	◎	運行管理者	2名
◎	処分業の許可申請に関する講習	1名	◎	有機溶剤作業主任者	6名
◎	内部環境監査員外部講習修了者	16名	◎	特定化学物質等作業主任者	4名
◎	特別管理産業廃棄物管理責任者	12名	◎	第一種衛生管理者	2名
◎	危険物乙種(4類)	32名	◎	甲種防火管理者	1名
◎	危険物丙種	3名	◎	酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者	7名
◎	小型移動式クレーン	6名	◎	2級ボイラー技士	3名
◎	床上操作式クレーン	3名	◎	小型ボイラー技士	2名
◎	移動式クレーン	1名	◎	職長・安全衛生責任者教育終了	1名
◎	クレーン5t未満	1名	◎	電気工事士	1名
◎	玉掛け	10名	◎	地下タンク等定期点検技術者	1名
◎	毒物劇物取扱者	4名	◎	eco検定(環境社会検定試験)	6名
◎	フォークリフト	22名	◎	救命技能	18名

2011年度環境目標の達成状況

震災により、復旧を優先した目標に変更しております。　　○＝達成　　×＝未達成

No.	環境方針	配慮項目		目標・実績	環境目標（2011年度）	評価
1	省資源・省エネルギー	著しい環境側面	エネルギー消費 CO_2の削減	目標 実績	① CO_2ダイエット ・ＢＤＦプラントの復旧 ・完全復旧	○
2	有効利用、再資源化技術の向上	著しい環境側面	廃棄物のリサイクルの推進	目標 実績	① 焼却物の有効利用 （高付加価値のリサイクル技術開発） ・災害廃棄物の受入 ・海水含む廃棄物のルート確立	○
3	安全且つ適正な収集運搬と処分を行なう	利害関係者の意見		目標 実績	① クレームを年間３件までに減らす活動 ・３件／年までに減らす活動 ・５件／年	×
4	法律・規制・条令等を順守	法的及びその他の要求事項		目標 実績	① 法的及びその他の要求事項の順守 ・違反事例０活動の維持 ・０件	○
5	作業工程での環境への配慮に努め汚染の予防	著しい環境側面	施設・設備・作業環境・収集運搬における環境汚染の未然防止	目標 実績	① 漏洩・車両事故の削減 （小さなトラブルも全て吸い上げる） ・２２件以内 ・１４件	○
				目標 実績	② 自然災害時のリスクマネジメントへの取組 ・災害協定書の締結を推進していく ・協定書が完成し６月協定締結予定	○
6	廃棄物の燃料化、原料化、資源化のリサイクルの推進	有益な環境側面	廃棄物のリサイクルの推進	目標 実績	① リサイクル原料の確保 ・前年度売上の8割確保 ・目標の１１６％達成	○
					① 廃プラ（食品残渣付着）の燃料化の実証 ・震災の為、今年度の活動中止	

教育・訓練

社内全体研修

第1回社内研修会　平成23年7月30日（土）

津波による壊滅的な被害から、復旧・復興の為の対応と反省として
各部ごとに下記の内容を討議しました。

① 3月11日各自の行動について
② 復旧・復興の作業場にて苦労した事について
③ 3月から7月の間に発生したトラブル・ヒヤリハットについて
④ 排出事業者様などからの御要望について

仮事務所及び休憩室にて（生産部）

仮設事務所にて（運送部）

本社にて（営業・総務）

復旧状況の現場説明

お客様への復旧状況の説明に対し、誰でも同じ返答が出来るように、
情報の共有化として全社員に説明。

第2回社内研修会　平成23年11月29日（土）

交通安全教育について

被災企業従業員のメンタルヘルスケアのあり方について
震災当時には気づかない「遅延性」のストレスがある事を
知りました。

第3回社内研修会　平成24年3月31日（土）

廃棄物処理法・改正について

産業廃棄物の受け入れから処分までの一連の
業務を通して、法律との関わりを教育

緊急時避難訓練

東日本大震災と同じような地震が起きた場合の避難
訓練を行い、予め決めておく課題を抽出

各部打合せ

東日本大震災による被害から復旧まで

弊社の事務所と2つの工場は仙台空港の北側にあり、3.11の東日本大震災により、高さ4メートルの津波が押し寄せ、2つの工場は全壊してしまいました。
しかし、地震で停電になりましたが、発電機を所有していた事から、津波の情報をテレビから得る事ができ、避難させた事で従業員は全員無事でした。

[第1工場の被害状況]

震災前のOPN

大津波襲来

第1工場（3月11日午後5時頃）

第1工場（3月13日）

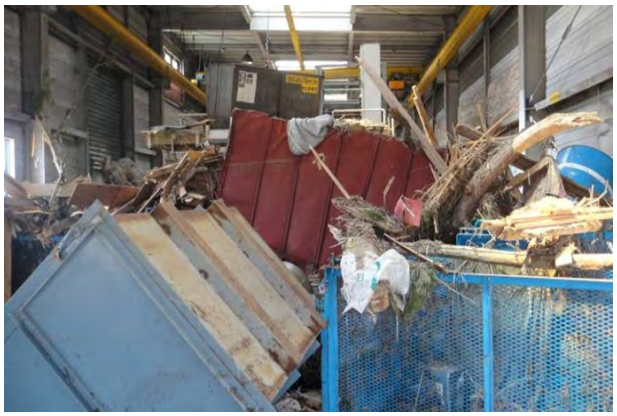
第1工場BDF精製プラント（3月13日）

第1工場再生重油精製プラント（3月13日）

[事務所・第2工場の被害状況]

事務所・第2工場（3月13日）

第2工場内破砕機（3月13日）



事務所（3月13日）

[復旧の始まり]

本社に復旧事務所の立上げ

復旧の様子

流出したドラム類の回収

流出した車両の回収

流出した保管タンク回収

お借りした発電機と取り寄せた発電機

［二次災害の防止］ボランティア活動

陸に上がった船の燃料回収

漁協地下タンクの燃料回収

ガソリンスタンド地下タンクの燃料回収

家庭から流出した灯油タンク類の回収

［被災した同業者による共同回収］

名取市災害緊急施設

共同回収事業

［事務所・第2工場の復旧］

＊電気復旧・・・・・・・・・・10月　1日
＊電話復旧・・・・・・・・・・10月22日
＊引越し（事務所移転）・・・10月24日第二工場事務所再開

［第1工場の復旧］
＊完全復旧・・・9月

[事業継続計画（BCP）を策定していても想像を超える災害であった]

ＢＣＰを策定していて何がよかったか？

プラント等の被害状況により対応が異なるが！

- 業務の取捨選択ができたこと
- 情報システム（サーバ）が使用できたこと
  →データのバックアップ、顧客名簿の電子化
- 協力会社、顧客等との連携が図れたこと
- 大地震についての認識を共有できたこと

売上確保のベースを築く

- ＢＣＰで事前に検討していた事業を早急に再開すべく方針を定めた

①再生重油事業（RB･SSC･CLC･BDF精製）
⇒残存タンクの利用、代替生産の委託、共同回収システム

②油水加工事業
⇒残存タンクを利用し、中和・混合作業を開始

③廃プラ事業からの撤退
⇒当面破砕事業は行わない

今回の大震災から学んだこと

- 緊急通報受信のためにも自家発は必須。インフラの復旧状況によってはレンタルする。
- グループ企業からの支援に勇気付けられた。日頃から関係企業との協力関係の構築が必要。
- インターネットなどによる顧客等への情報発信が必要。
- 拠点、情報システムを可能な限り多重化する。
- 2～3ヶ月の収入の激減に堪えられる体力を持つ。プラントを動かす要員の確保に努める大切さ。

困った出来事（想定外）

- 電気・電話・水道・ガスが長期間不通
- 安否確認システムが機能しなかった
- 食料や水など日常生活物資に事欠く
- 公共交通手段が途絶えた
- ガソリン・軽油等の燃料不足
- 部品や作業用具が思うように調達できない
- 取引先の多くが被災し長期間入荷なし

皆様から暖かい御支援を頂きまして、誠に有難うございました。

※支援物資が大変貴重な数ヶ月だった事から、災害時に必要な物資として皆様にご紹介いたします。

①車両の燃料
- ガソリン
- 軽油
- 灯油

②食料品
- 水
- お茶
- ウーロン茶
- リポビタンD
- アクエリアス
- ジュース
- コーヒー
- ビール
- カップ汁
- みそ汁
- お米
- おでん
- 缶詰
- カップメン
- 乾麺
- カレー
- レトルトカレー
- パン
- お菓子

③普及車両及び発電関係
- ユニック車
- ユンボ
- ブルドーザー
- 発電機
- コードリール
- 石油ファンヒーター
- 手回しポンプ
- 電動ポンプ

④作業着類
- 軍手
- 下着
- 作業服
- 作業ゴム手袋
- 長靴
- 靴下
- カッパ
- タオル類
- 衣服

⑤衛生面
- ウェットティッシュ
- 除菌タオル
- 石鹸
- マスク
- 紙コップ
- クリーナークロス

⑥雑貨類
- トイレットペーパー
- ティッシュ
- 封筒
- 文具類
- ダンボール
- ガスコンロ
- カートリッチガスボンベ
- 乾電池
- ろうそく
- 生理用品
- ブルーシート

地域社会との関わり

※社会貢献
　近隣の福祉施設（みのり会）の就業体験

震災後も障がい者の雇用を推進し、社会人としての自立支援を応援しています。

〖宮城県と宮城交通様が協力して、バイオディーゼル燃料を使用したバス〗

19年度から継続してBDF 100%を燃料とした宮城交通株式会社様の路線バスを運行してきましたが、23年度は震災によりBDF施設が被災した事から中断しました。
平成24年度からは供給を再開しております。
〔過去の運行実績〕

19年8月24日出発式～11月末	バス1両
20年7月～12月末	バス4両
21年6月～12月末	バス4両
22年6月～12月末	バス4両

写真は宮城県資源循環推進課HPより引用

〖新聞や雑誌に掲載された記事の一部を紹介〗

河北新報　平成23年(2011年)4月3日(日曜日)

早期復旧 BCPが奏功

本社機能移転、中核事業を特定

危機対応 万全を期す

宮城の被災企業

河北新報　夕刊

二次災害 懸命に防ぐ

BCPを支えたもの

工場全壊から被災前を上回る勢い

オイルプラントナトリ

わずか8日後の再起

東京都

コンプライアンス活動

・東日本大震災にて津波により受託した産業廃棄物が流出した事をどの様に対応したら良いか、宮城県に相談した結果「大災害のことであり、流出したものについては、特に届出は不要」との回答を頂きました。(但し、平成23年4月1日付法改正により、今後は「処理困難通知」義務化)
・宮城県に既存の施設内で許可範囲の事業をする事など「緊急共同処理場」として了解を頂きました。
・名取市に車両など施設を[災害緊急指定]にして頂き、災害地への入場や作業を行う事が出来ました。
・二次災害及び環境汚染防止の観点から流出しましたドラム缶に付きましては、震災前の在庫数よりも多い本数を引き上げましてリサイクル処理しております。(住民宅からの流出物も回収協力)

安心・安全をめざして

震災前の全ての活動を推進して行くにはもう少し時間が掛かりますが、ヒヤリハット及びKYT活動などのように、早く取り組める活動から始めて怪我や事故防止を推進しています。

アルコールチェック

危険ポイントの洗い出し

安全行動の唱和

環　境　監　査

一部最新のデータが損失した事とISO事務局メンバー変更に伴い「ISO復活までのプロセス」及び「ISO復活までのスケジュール」を作成し、100%ではありませんが復活させるのが大変でした。定期維持審査は、23年3月(22年度分)を23年11月に審査を受け、24年3月(23年度分)を24年5月に審査を受けるように配慮して頂きまして、無事「登録継続」が承認されています。

EMS
ISO14001:2004
JSAE387

EMS Accreditation
RE005

PRTR届出量

単位:kg

第一種指定化学物質の名称		大気への排出	移動量
号番号	名　　称	平成23年度	平成23年度
63	キシレン	120	3,700
227	トルエン	870	12,000
40	エチルベンゼン	2.3	1,000

ばい煙測定

SOx規制値(1.17m^{3}N/h)　　NOx規制値180(volppm)

	H16.3	H16.9	H17.3	H17.9	H18.3	H18.9	H19.3	H19.9	H20.3	H20.9	H21.3	H21.8	H22.3	H22.8	H23.9
硫黄酸化物(SOx)	0.12	0.15	0.10	0.13	0.06	0.25	0.60	0.16	0.13	1.13	0.09	0.11	0.08	0.15	0.22
窒素酸化物(NOx)	120	120	110	130	170	120	70	97	170	140	110	140	97	130	140
硫黄酸化物排出基準値は係数により変動する							1.5	1.2	1.3	1.2	1.2	1.2	1.17	1.17	1.17

表　彰

多くの皆様に支えて頂き、今日があります。

23年度

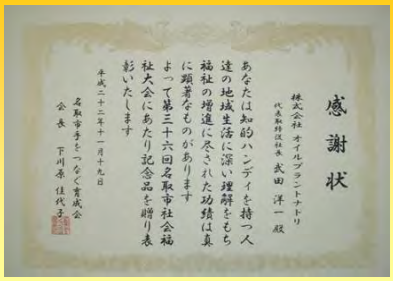
世界最大の非営利組織団体（BCI）ロンドンで開かれた総会で、BCPの効果的な発動によって被害を最小限に災害などを乗り切ったとして最優秀賞に選ばれました。

21年度

リコー様から産業廃棄物の優良処理業者に認められ認定証をいただきました。

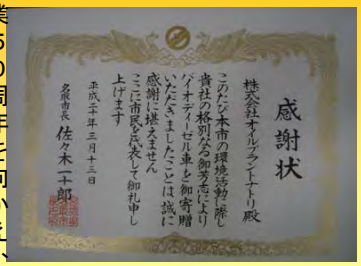
22年度

知的ハンディを持つ人たちのため社会福祉の増進へ協力した事にいて感謝状を頂きました。



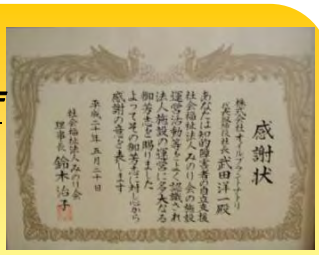
19年度

創業50周年を向かえ、仙台市長様・仙台商工会議所会頭様連名で、お祝いの記念品を頂戴しました。



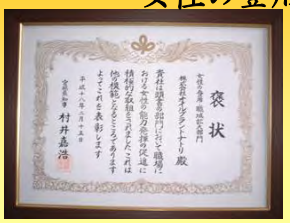
名取市の環境活動に支援した事により、名取市長様より感謝状を頂戴しました。

20年度



社会福祉法人みのり会様より、施設の運営に協力した事について感謝状を頂きました。

17年度「ポジティブ・アクション推進事業」女性の登用・職域拡大部門賞



県知事様より、職場における女性の能力発揮の促進に積極的な取り組みをしている事業所として頂きました。

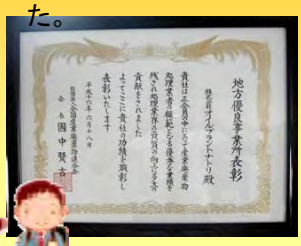
18年度　優良事業所表彰

交通事故防止の重要性を認識し職場一体となった交通安全活動を認めて頂きました。

16年度

社団法人全国産業廃棄物連合会会長賞　地方優良事業所

産業廃棄物の適正な処理活動を認めて頂きました。



消防庁長官賞

危険物の安全管理や保安に関する施設の推進活動を認めて頂きました。

ＢＣＰ（事業継続計画）

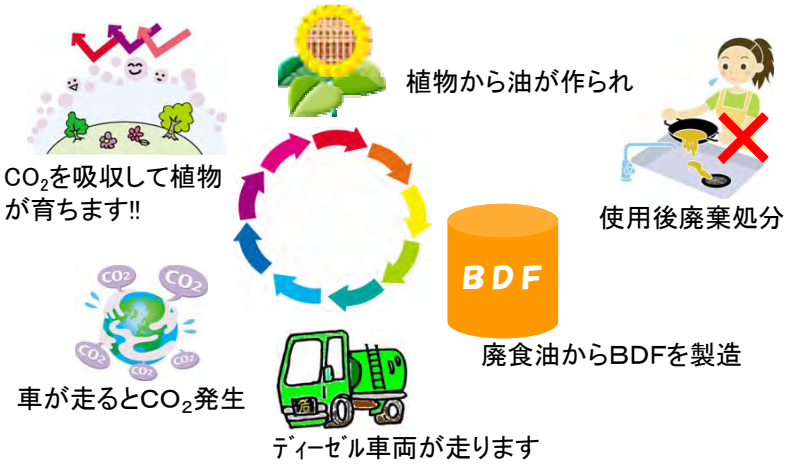
BCP(Business Continuity Plan)は企業が災害や事故などの不測の事態を想定して、事業継続の視点から対応策をまとめたもの。

自社の業務プロセスが抱えるリスクと影響を洗い出す。そのうえで優先的に復旧すべき業務とそれに必要な設備やシステムを明らかにし、重要業務への影響を最小限に抑え、速やかに復旧・再開出来る様に目標復旧時間の設定や復旧手順を予め策定しておく行動計画のことです。

ＢＤＦを使用すると ＣＯ₂カウントはゼロ

植物は、成長過程で光合成によって二酸化炭素を吸収することから、バイオ燃料は二酸化炭素の増減に影響を与えないと考えられています。

これにより循環サイクル（カーボンニュートラル）が実現します。



株式会社オイルプラントナトリ

〒981-1201

宮城県名取市下増田字広浦５２番３号

TEL　022-382-2713　　FAX　022-384-0946

E-mail：opn-amenity@msf.biglobe.ne.jp

---発行　2012年12月　ＩＳＯ事務局---